

就任の挨拶

福島県中学校長会 会長 佐藤 浩哉



今年度、福島県中学校長会会長を拝命いたしました。新役員・事務局員の皆さん、各支会の校長先生方のお力添えいただきながら、誠心誠意、務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

はじめに、佐藤 晃 前会長様をはじめ本年3月末をもってご勇退されました校長先生方のご功績に敬意を表しますとともに、長年にわたるご指導に対しまして、心より感謝を申し上げます。

昨年度は、コロナ禍のため、全日中、東北地区中が大会誌に替える開催となり、会津大会も中止となりました。校長同士、直接会って言葉を交わすことの重要性を改めて痛感しましたが、各支会の協力と各部会の努力により、本会の事業は、紙面開催や中止となる会議も多々ありましたが、しっかりと推進することができました。その主なものとして、行財政部会の調査・分析をもとに行った要望活動、研究部会による研究集録の刊行、進路指導部会による県教育庁との話し合いや、入試制度にかかる情報提供、また、「中学校生活と進路」の編集、生徒指導部会の調査・分析、そして小中合同の研修会開催や「生徒手帳」の編集、さらに、広報部会による2回の広報紙の発行など、しっかりと事業を展開することができました。また、教職員の働き方改革や児童生徒のインターネット活用について、新聞社等へ情報を提供し、社会全体の問題として提起することもできました。

さて、学習指導要領の全面実施となった今年度、GIGAスクール構想による生徒一人一台のタブレット端末に関連したICT教育にかかる研修をはじめ、不登校、いじめ、虐待、SNSを起因とした諸問題、働き方改革の推進など、学校は様々な課題を抱えています。その中でも、一昨年度末からのコロナ禍への対応は、全ての学校教育活動に大きな影響を与えています。

また、本県においては、東日本大震災及び原子

力災害から10年が経過しましたが、未だ、地元での再開が果たせない学校もあり、復興は道半ばであります。今年度は第二期復興・創生期間の初年度であり、風化防止や風評払拭に正面から向き合い、放射線教育や防災教育を改めて重点事項とし、放射線や震災を理解し説明できる人材の育成について決意すべき時であるとも考えます。

本会は、各学校の実態を踏まえ、「教育活動の正常化と当面する諸課題の解決」という基本方針のもと、次の4つの観点を重視しながら、各専門部会を中心に年間の活動計画に従って事業を展開してまいります。

- 1 校長会は、校長自らの見識・資質等を高める研修の場であり、情報共有を進め、その成果等の効果的な活用(教育行政への提言等)を推進します。
- 2 「全日中新教育ビジョン」を踏まえ、学校からの教育改革に努めます。
- 3 教育公務員としての誇りと使命感を持ち、不祥事根絶に努めます。
- 4 教育諸条件の整備・充実と教職員の処遇改善に努めます。

校長として「学校は復興のシンボルであり、復興の活力源である」こと、また、「学校は命と健康が輝く場所である」ことを肝に銘じ、学校経営の最高責任者としてのリーダーシップを発揮し、子どもたちが郷土への誇りと自信、将来への夢と希望をもち、福島県の復興・創生を担う人材として成長するために「生き抜く力」と、「よりよい社会を形成する力」を育めるようにすることが重要になります。

会員の「誰も一人にしない校長会」として、今後も各支会との連携を密にし、会員の総力を結集するとともに、県及び各市町村教育委員会、並びに関係機関等のご指導とご支援を賜りながら、本会の組織的で継続的な活動を通して、「教育活動の正常化と当面する諸課題の解決」に全力で取り組む考えであります。

終わりに、会員の皆様のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます、就任のあいさついたします。